



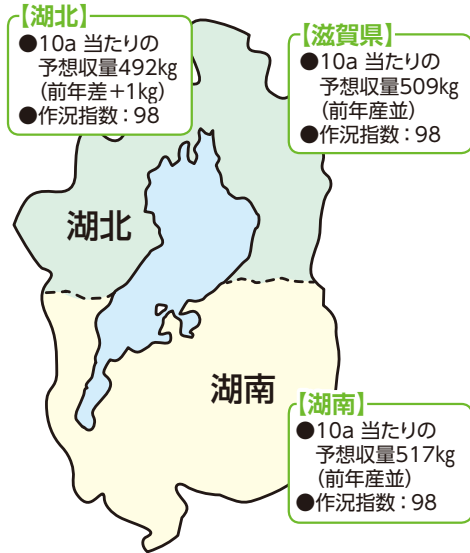
# 令和2年産米の作柄と品質の概況

令和2年産水稻の予想収量と作況指数が9月30日に公表されました。滋賀県の予想収量は10aあたり509kgで前年並みとなり、作況指数は98で「やや不良」となる見込みです。

## 滋賀県の作況指数

(9月15日現在)

[9月30日 近畿農政局公表]※( )内は前年差



## 近年の湖北地域の作況指数

平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和1年
99	102	102	97	100	104	100	99	98

## 全国の作況指数は101で「平年並み」

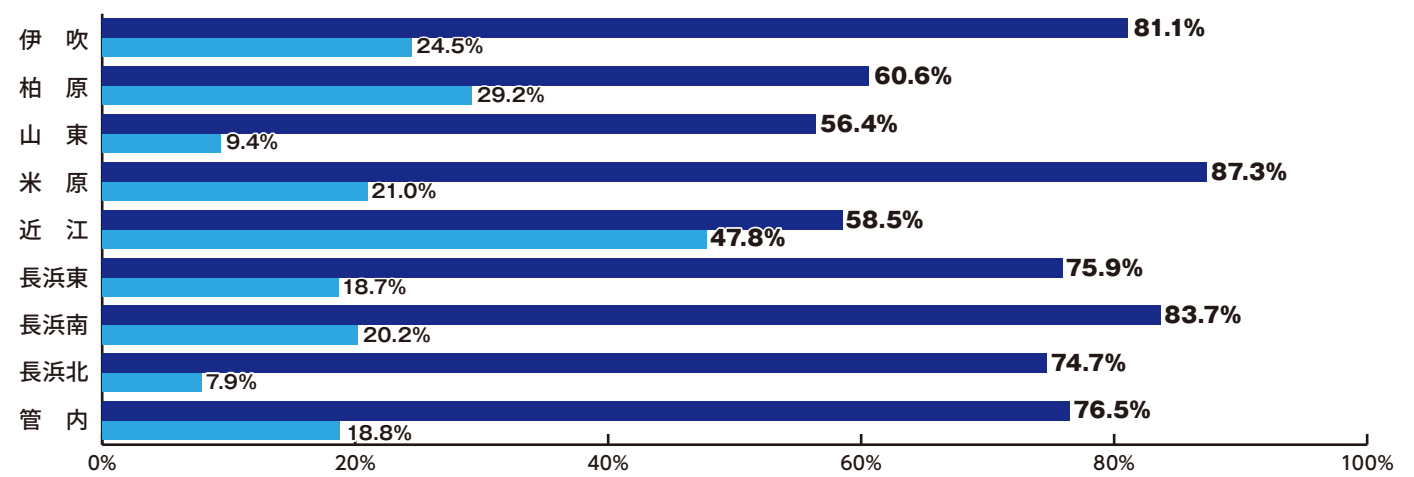
北海道と東北、北陸は天候に恵まれて全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調で「やや良」。

## 作柄概要

- 移植後、寒暖差が大きく活着遅れと5月中下旬の低温・日照不足により莖数が少なく経過した。
- 生育期前半は、莖数不足の影響により穂数が少なかった。
- 8月の気温は、平年よりも高く推移し登熟は良好であった。品質については、早生品種は、昨年ほどの異常高温ではなかったため良好であった。中生品種は、高温で経過し未熟粒・乳白粒・カメムシ等による着色粒など品質が低下した。
- 病害虫では、7月の梅雨の影響により、いもち病の発生が見られた。害虫では、10月に収穫を迎えた水稻では、トビイロウンカの発生が多かった。

## 米検査状況

令和2年地域別地場コシヒカリ1等比率 (9月30日現在)



## 2等以下の格付と主な要因(上位)

格付種類	種類解説	要因
胴割粒	米粒に亀裂がある	●出穂後10日間の高温 ●早期落水・刈遅れ
除青未熟粒	充実の不十分な粒で、玄米の厚みが薄く、縦溝が深い 歪みや変形したものもある	●籾数過多 ●登熟期の稲体の活力低下
カメムシ着色粒	カメムシによる吸汁被害 イネシガラセンチュウによる被害粒	●畦畔雑草でのカメムシ類の増殖・適期防除の未実施 ●種子消毒(イネシガラセンチュウ)の未実施

